

ESD-J2015 年度 事業計画

<2015 年 4 月 1 日～2016 年 3 月 31 日>

I. 2015 年度の活動方針

2015 年の開始とともに、ESD はセカンドステージに入った。ESD-J は 4 月 26 日に「ESD 世界会議からセカンドステージへ」を開催し、総勢 100 名の多様な参加者とともに今後の ESD の展開・推進について語りあい、あらたなスタートを多くの関係者とともに祝うことができた。

そして政府においては、ESD-J が長年働きかけていた、“地域の ESD を支援する官民協働の ESD 推進プラットフォーム”として、「ESD 活動支援センター（仮称：以下、ESD センター）」の設立に向けた準備が始まっている。

ESD-J はこの「ESD センター」が、これまでの提案の趣旨にかなう“官民協働による政策的支援が可能となる仕組み”となるよう、民間側から働きかけていく役割が引き続き重要であると考え、ESD-J としての活動を継続していくこととした。そして、これまで担ってきたさまざまな役割を見直し、ESD 推進のための政策形成に市民の声を反映させることを柱とした組織として主たる活動を絞り込み、また、理事による業務分担を進め、事務局機能のスリム化を実現していくことを目指している。

事業としては、これまでの ESD-J のネットワークや取り組みの成果を活かし、

- ① 市民社会の意見を集約してセンター構築のプロセスにインプットしていく事業を中核に据えながら、
 - ② ESD の 10 年における ESD-J の活動を振り返り、評価し、成果と課題をとりまとめる事業
 - ③ ESD の視点を持ったコーディネーターを増やし、ネットワーク化していく事業
 - ④ アジアの NGO のネットワークとして ESD の具体的なツールを開発する事業
- に取り組んでいく。

組織体制としては、10 月以降、常勤スタッフを置く体制から、非常勤の事務局とネットワーク型のプロジェクト実施体制へと移行し、管理コストをおさえ、機動的な組織運営が可能となる形を目指している。

2015 年は組織の移行期であり、とりわけ 10 月以降の体制づくりには、会員の皆さまからの提案なども踏まえながら、より効果的な活動の展開が可能となる形を模索して行きたい。

II 事業活動

1. 官民協働による ESD 支援の仕組みづくりへの参画

【目標】

現在、政府によって設立準備が進められている「ESD センター（仮称）」が、地域の実践者の声を反映した政策形成、および官民協働による ESD 支援のためのプラットフォームとして設立されることを目指す。

【事業内容】

- ・ ESD 推進のための政策形成に市民の声を反映させるために、ESD-J のネットワークを生かし、地域の実践者の声を集め、提案にまとめていく活動を行う
- ・ 「ESD センター」の企画・運営プロセスに民間から積極的に参画し、ESD 実践者の要望やアイデアを「ESD センター」にインプットしていく
- ・ 「ESD センター」の運営に、民間団体として参画することを目指す

2. 市民による ESD 推進の評価事業

【目標】

ESD-J 発足から ESD の 10 年終了までの 12 年間、展開してきた政策提言や支援事業について情報整理を行い、その実現状況や成果、残された課題などを市民社会の視点から整理・評価し、それらを公表することで、2015 年以降の ESD 推進政策の形成および官民協働による ESD 実施に役立てられることを目指す。（地球環境基金助成プロジェクト）

【事業内容】

- ・ 2015 年以降の ESD の方向性を共有するためのワークショップの開催（4 月 26 日）
- ・ ESD の 10 年評価委員会を設置し、以下の取り組みを行う
 - ① ESD-J の取り組みの情報整理と web における情報の公開（4～7 月）
 - ② ヒアリング等評価データの収集に基づく ESD-J の 12 年間の取り組みの評価（8～10 月）
 - ③ ESD の 10 年評価報告書の発行と、ウェブでの情報提供（10 月～2016 年 3 月）

3. ESD コーディネーター育成に関する事業

【目標】

地方自治体やさまざまな機関におけるコーディネーター研修事業に協力し、ESD の視点をもったコーディネーターの育成とネットワーク形成を促進する役割を果たす。

【事業内容】

- ・ これまでのコーディネータープロジェクトの成果（OJT 型研修の考え方や映像教材、講師のネットワークなど）を活かし、ESD コーディネーター研修を請負い、あるいは主催して実施する。

- ・ ESD コーディネーター研修の相談窓口となり、適切な団体や講師を紹介する。
- ・ ESD コーディネーター研修の成果をウェブサイトで発信していくことで、ESD コーディネーターのネットワークの形成を促進する。

4. ANNE 事業など国際ネットワークに関する事業

【目標】

アジアの農山漁村地域の ESD 推進に向けた人材育成のモジュールの開発プロジェクトにおいて、各国の実情を踏まえた人材育成モジュールを完成させ、アジア各国でマイクロファイナンスを活用したエコ企業プロジェクト推進のツールとして、地域の NGO や開発協力機関等での活用を目指す。(トヨタ環境活動助成プログラム)

【事業内容】

- ・ ANNE メンバーである国において、ESD-J がインド CEE と共同で作成した“生物多様性を踏まえた農山漁村開発における人材育成モジュール”の適用性を検討しその改善を図る。
- ・ 国際シンポジウムを開催し、アジア各国の NGO および開発協力機関らとともに、開発したモジュールの有効性の検証と、今後の展開に関する議論を行う。
- ・ 完成したモジュールは、出版物及び電子情報の形で関係機関に配布する。

5. 普及啓発、情報収集・提供

【目標】

ESD 推進に関する関係機関の情報発信については、「ESD センター」にて展開されていくことを想定し、ESD-J では、ESD-J の 12 年間の蓄積と、セカンドステージにおける ESD-J のあり方を ESD 関係者に発信していくことで、ESD の推進に寄与するとともに、新生 ESD-J のガバナンスを維持発展させることを目指す。

【事業内容】

- ・ ESD レポート 36 号の発行 (本号をもって ESD レポートの発行は休止)
- ・ ESD-J ウェブサイトの運営
- ・ 会員メーリングリストの運営
- ・ メールマガジンの発行

6. その他 ESD 推進に関する事業

ESD の推進にかかわる事業で、ESD-J が主催することがふさわしいと判断した事業は、別途理事会が作成する内規に従って、実施することができる。

Ⅲ. 実施体制について

1. 役員等

代表理事	阿部治、重政子
副代表理事	池田満之
理事	池田誠、大島順子、小金澤孝昭、新海洋子、柴尾智子、 壽賀一仁、杵本育生、鈴木克徳、関正雄、長岡素彦、 竹内よし子、三隅佳子、村上千里、森高一、森良、吉澤卓
監事	浅見哲、吉岡睦子
顧問	池田香代子、岡島成行、廣野良吉（確認中）

*役割

ESD 支援の仕組みづくりへの参画事業	主な担当理事：阿部治、重政子、村上千里
市民による ESD 推進の評価事業	主な担当理事：阿部治、新海洋子、村上千里
ESD コーディネーターの社会化	主な担当理事：壽賀一仁、森良、森高一
国際ネットワーク推進	主な担当理事：鈴木克徳
普及啓発・情報収集・提供	主な担当理事：吉澤卓、長岡素彦、森高一
地域担当理事：	【北海道】池田誠 【東北】小金澤孝昭
	【関東】森良 【北陸】鈴木克徳
	【東海】新海洋子 【近畿】杵本育生
	【中国】池田満之 【四国】竹内よし子
	【九州】三隅佳子 【沖縄】大島順子
組織運営理事	阿部治、重政子、池田満之、鈴木克徳、村上千里

2. 事務局

事務局長・・・村上千里（常勤）
スタッフ・・・伊藤通子、笹川貴吏子、宮崎裕子（非常勤）

*なお、現在の事務局体制は9月末までとする